

「寒門有硬骨」と「牛魂碑」

北海道足寄町・足寄開拓

北海道十勝地区の足寄郡足寄町は、日本の町村で最も面積が広い。人口は約6800人。山麓特有の気象現象と内陸性気候の影響で寒暖の差が大きく、冬は冷え込みが厳しい。

明治期の開拓により、農地が拓かれた。戦後の開拓事業による入植者に残されていたのは、丘陵地だった。入植者は45（昭和20）年11月の復員軍人を皮切りに、翌年の山形庄内開拓団、長野開拓団など70年までに534戸を数えた。48年、足寄町開拓農協が創立された。

入植地は強酸性の火山灰土壌であり、炭カルを運ぶ道路も整備されておらず、作物栽培は困難を極めた。当初は、自給用の作物と販売用の豆中心の畑作だった。だが、標高300～500mの高い高冷地で、53年から56年にかけて冷害が度重なった。定着しつつあった豆作は転換を余儀なくされた。

いつ襲われるか分からない冷害に対処するには、草地を基本作目とする経営、酪農への転換だった。離農者が多く出たが、次第に酪農の専業・大型化が進んだ。乳用雄子牛の哺育、肥育も行われた。現在、酪農や肉用牛経営など畜産が盛んな地域となっている。

開拓農協は05年9月、足寄町農協と合併。開拓農協施設内の2基の記念碑は同年6月、末広地区共同牧場内に移設された。記念碑「寒門有硬骨」は78年、「牛魂碑」は83年の建立。「寒門有硬骨」は組合創立30周年を記念したもので、「寒門に硬骨あり」とは「厳しい環境の中からこそ、人材が生まれる」といったことを意味している。

○足寄開拓 茂喜登牛神社社殿

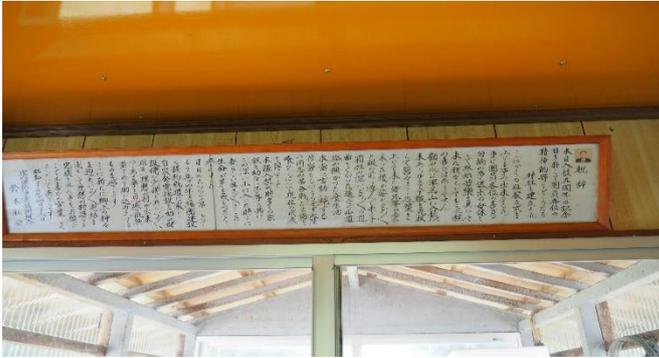
①位置 北海道足寄郡足寄町

②写真

- 1 -



入植 5 周年祝辞



本日入植五周年の記念日を朴して團員各位の精神的寄りどころたる神社を建立せられここにかくも荘厳な式を上げる事の出来ました事は團員各位の喜びは勿論の事送出の母体として終始苦楽を共にして未だ我々としてもこれ程の喜びはありません 顧みれば軍馬山に入植以来あらゆる辛酸を克服して営々としてここ迄築き上げて来た諸兄等の歩み来った道が姿がまざまざと眼の前に浮んで来ます霜柱の深いどろどろの道曲りくねった延々の山道塩の無かった食生活本営に言語に絶する苦労もものともせず大陸の同志の弔合戦だと歯を喰ひしばって現在 - 2 - の成果を得ました 本隊入植の時多くの家族と幼ない子等と共にこの深い山に入った時ここに新しい生き生きとした生命が芽を吹くのだと感じました 月日がたつのは早いものでもう五ツの年を経團建設も〇約軌道に乗り自家発電施設を始め諸設備の完備と共にいよいよ明るい理想の村が出来つつある事を見感慨無量であり胸にこみ上げるものを感じます ここに新たに郷土の神々を迎えいよいよ團結を固くして理想の村造りを完成されん事をお願いしてお喜びの言葉にかえるし

だいであります昭和二十七年四月十七日 庄内開拓事業協同組合 鈴木壯助

○足寄開拓 牛魂碑 寒門有硬骨碑

①位 置 足寄郡足寄町末広地区

②設置者 内閣総理大臣 中曾根康弘 農林水産大臣 中川一郎

③設置日 平成 17 年 6 月

④碑文表 牛魂碑 寒門有硬骨

⑤写真 表

- 3 -



碑文

昭和五十三年九月、足寄町開拓農業協同組合創立三十周年記念として開拓記念碑「寒門有硬骨」、昭和五十八年九月に「牛魂碑」を、足寄町西町五丁目の開拓農協施設内に建立する。

五十七年間続いた開拓農協の歴史に幕を閉じることになり、平成十七年六月、両碑を末広地区共同牧場内に移設する。

⑥記念碑の現在の立地状況

足寄町末広地区共同牧場内